化我邪乃上

へ遠13
2004
1-6

2004
1

一

有文堂

孔奈美栄太年れうことを吹バ
年ちりほうよこち高きをく指
ふるさるを以て光月を
指ぐひうぎをを忘たる山を
山こしてもうもやうこ物し
もる田もれて多枝

他我身のうへ第一

一 [illegible]

二 儒佛ともうごされ事 并歌書

三 作りうたうたうの事

四 悪事千里されます

五 [illegible]事 [illegible]孔の事

六 へちらうんの事

七 論語うされ [illegible]ずの事

八 一文八文文されの事

九 [illegible]

十 小者とふてうたうたうされます

十一 我身されひとうたうぬえ色とされとの付の心和とうたうう

十二 一文とーーされ百ちうどされ事

十三 法体の名の事 付 弁慶 [illegible] 武勇の人

十四 まうこまうたうされ事

十五 [illegible]二代ちうう事

十六 [illegible]ます付てされみやう詳列されます

十七 碁双六されます

十八 うぎまうたうの事 付 さいまだう

十九 [illegible]とうます 并佛の四恩されます

九 [illegible]中きうべうさ法事たうます

九一 [illegible]されます

十二 出家し女類肉食同ぜぬの事

十三 無んくるる事

他我邪のこと第一

一 法華経を修行する人は後生をねがひ願ひてこの娑婆世界にて人のこころもとかくやとられなり。是大聖釋迦の御教訓なり。

不審申さんひとに対して。ひとの為にとりてこの世界にて人のこころもとかくやとられなり。

生死ひとつにあらず。其人は後生をねがひ願ひてこの娑婆世界にて人のこころもとかくやとられなり。

やうにすることは。其人は後生をねがひ願ひ。

がふまるれども人の愁とはなりて。

のみづからかなしきことあり。

愁の為にとて人のいとまなくて世の愁とすべきに。

我方へとふひておいてはやかまいやうどうらせていふ
へうひんでよかりねまするこの金の穂とおもて我穂ハ
しそんとうるくるうんうりうこうりうど我穂とぶ
ハ前世の宿業
ハうう有善根の種をうとかうてぶしくの法を
せんまふ長ハほどハ対つ時と
せぐにんとりて京ハとそうとなる人の彼
もさうん。羅とひるまれば上方の穂と物がたりやとぶひて
稲場ハうう傍とあるまんぶ寺ハ堂信者ハ
ひんのうるまるうとうぐめさわうくるる城ハ名ハ
ろんぶ関ハんうさふりてたらひうる出家ハし貧ろ
ハ位寺とびのぶまんど間ど寺ハ同ひのらうとうぐ

それは何かどれ寄んとせしましはじんは我ていかしこき拳
加ま法さへんと我慢とおもへくる人とさねこぼしくと
こゝやとぞ是ん宗円れ法の世れあといみでも識ょ後世と大切
小児ん とうすう ぐぼん一まゝ小我まんとやあジょ慈悲とわうる
ともしべしたゝひ我まんとやあたりとて慈悲のんしもとてもて
へ後世と称ずらうてへべしと又慈悲ありやすき我まんとさき
らせは平仏の心みけひがらし此うどんよ食法し故其よま我
是れ形をとあろ人と愚也たいは我は識れ仏陀若と謂りん
㊁つらき人のひが耳よ儒道とうとりやすきて禅の法語す
よらさ神道すしふられがんつらき事ずうまうりて万事物ぐ
ぶりし文字草子すずりんがね色とようつしめ慮しふんとも

らくらく流べしられ奇書れ本意なりきし
㊂藝能よかぎりしと物の師道とらうとの弟子よりさく
しとらひられしんとかれとのすむりひてよろ心えねりざすら
㋩人のよきき事とうす種ふよろふぶうらずうとの教られずる。
よろらん事は何とも也あぬ物とその忘れはうさま事は多く
人のかへり待人ぬゆすてあるべし其れしさ事に一たんうて
ぢらかひとしても千里れ秘まで人よかへり待ふらぬそさ
しんせらましうらかとよはすされどもちとおりしろぐら
心すらゆへすやいとあうし
㋑富もうすりとよろぞうりはて何れ德もうすく智恵も
すさ人はこびあうらふ人とそばうりうえて事の秘し

まよひて貧賤なる人ハうらやみ人よりもなほありあまりてくるしかく
いふともきかず人のうへをうらやみ富貴なる人にならんとおもふハ世
のならひなれバなほつらからぬもやはりておほくハなほつらかるこそ
れなりかくて心をはなしてなほつらきをいへるべくもびくもし
ことのたよりにもつらからずとて我意とおもひてみづからを
よろこびをするものなれバなほつらからぬと存じ自然と人の愛ざうすくなる

⑥くるしきはふかくしてなし茶の湯すきとよばれてはいえ
まづる人のうちに道具すきもなく求めども我家すけり
けるものをよろへこえよきぬ人の数寄の道はとゝくらう茶
どのよき楽なりとおもひしょさんの利口ある道具をもつ
るとこそ物とよび心得てあけられ利休めもとゝりしとびげ

らひそしまうてとかくし

⑦世話に論語よまれ論語によまずといふ事をいひし
がうさ法師おほく識にまるべらしきも云葉をされざりはかるさ理屈
をいひして人の学問とすし人ハ道のため世人のためにあまり切
とはいえど後世人自然に弟子もたちまちしめ諸候より
もとめ出されて国の守護とも仰られ其の今の代の儒
者ありとて世にも鳴りの名をさまとられど其わりや宗鑑
にはされくの衣をもはがせ二親にも隠居の跡をも
らしとべし好かれ子と学問をすもさせてゆくゆく世を
ゆするたつぎにもさせんすずにたちてるひかたにやらく
大学とよみならふころうたや弟子とよふ講尺とも

して人よりきせてんとうつくしうやかくやとうの門よ法
体とも異風するかとてくいもはさうくなる海丸
さきものの人よ物とりうふものうと心ひてあそう人も
まうへもんるさうれと云けさてうゆ一ぬふ書とミ
るゆへよはうしこくて我よあくねとのるれいたとひうさ
人うもかもうさたとへといひてあうさ海云すしみ
かうさきのうも我とあ腹中すううものうれい利益す
引事とう行て雲井までもはあげ証訳なか
るうとも是即天地和合ハ道理人倫の根本すぐ云成る
花とさうせて云ゆうれでぐ當座ハ滅よかうこげよ訳なの
孫九郎うゆもみもまでもうとでさてそぐうりうの

つくりをとれば、ひと筆ひ雲泥をあらそふ。ちがふ人
のこゝろ、なぞらへば論語のごとし。強情ならずして、ひるがへ
⑧世にとうとき心ばへ、文字とりひ道理とも、
ものとして文盲なる人の、物ごとにそしらぬものなり。
是ものかひがまなり。識は一文も無くして、物ごとに
ものをしりよるまねをつくる人と、物ごとに
あきらへべし。唐の玄奘三蔵は、人乃教
ひろめ給ふ。よくよくにのこゝろをもて、
このくにぐにをめぐりて、仏法をひろめ給ふ。
うつてこゝろを物にとられたる。
なれとなげきをつくる。
くるべき。
うくはうし。
⑨いまの年はいとやうやうにおとり、
うつる。人とこゝろをたてるゆへ、やまひのもと
しげきもの。人がりをさいくると我をひたけるこゝろ
かくあると思ひ、そして方寸分別をゆへ、人のあ
ばまれるとおもひとりて、物ひとりをとゝ
⑩ものさ人のこゝろ、智恵ハ藝能を、
ゆ人は考へ人の藝能をまなぶ。ものさとワ、ひとたびの人にとゝ
⑪我分際をうつ言葉、ものひとり人のはひ、
も是ハ、とゝとゝ人ゝとゝ、ものひとり人ゝとゝ

べきれば、諸方人やまうれんとのくらまをすべ
ばかりをたつとき云葉にいる礼義たしくはふるのみ
だいぞ人をれば礼とをんやたとへば女の中にて世ゝ
ものと二つ求ゝんよりのぐらにとゝうしあるさ
あるんともこれまづ是方用よりたんとれ法べしとに
義とゝ法よりでうけきれ人ぐるまんがちよりさと
ゝんみゝさうゝと是方とゝそうべきれてたゞ
ひる礼をぱしてしまけたんうへいたゝひ和れまま
ゝうてんめゝもつとゝうたりゝそもへも和とゝう
ゝど和もの法ゝびぱゝ礼とゝうへまゝうたりゝたゞ
ひ丹ゝてもゝうべしぱゝ礼法ゝすくたゞひる

あゝゝひゝつゝものゝゝゞへまゝとゝうたりゝゝべいうゞく
ゝ脇も立ゝべしゝ是れ法ゝうゝるゝゝうて人よりるゝく思い
せんと蓋ゝしゝゝく脇女の文かも和方とぱゝ云葉ひゝう
して一生ゝゝゝとゝて法れいゝうゝへたゝゝべゝれわるゞう
當座れゝりあひゝゝとゝく云とゝて人蓋ゝるゝ人いゝゝわゝ
うゝど

(十二) 我身ぱゞ法ゝゝれ人よゝゝれとゝゝれとゝるゝべ人ゝう
ゝゝゝゞきゝものよりたゝうゝひゞゞゞまゝゝのみふゝくわゝゝく
ゝものゝれゝれゞゞゝゝゝ金邪と法ゝれゝやゝと人もゞゞゝ義
理喧法ゝゝゝとゝゝゝゝすゝゞゝゝうゝゆゞゝまゝよ脇ふゝさう
なゝゞゞゝ

十二 法師とてゐづくさまと求め耳よりん法師ゐ求
[illegible]
うそたつとしへ名をかうてたくらじ贊嘆弁才こうと
ほかいとけてと出らしくゆのまでもこと贊嘆弁才
も極うくゐ贊嘆も弁才ゐ名をいはじ
又かけといつゐかもけてたくさ名ゆけあくもゐ意地の
ほどとうくへ志れゐかくうもやたくさくしゐとこう
名と東寝う草寝うふはもてむくうゐ
こくゐくうべし
十三 万ふけくきへるれつ
ゐも立のゐうんとゐけくうゐ

どうゐさへありてはれすくゐをくうけうちよや
うくゐ今ちすうゐよりざるられ心すくどはれつまゐ
どむへて年ほとうゐくうちうゐみくとつものえうう
ゐをうまうけくやかくやゐ家ゐもゐ内ふせんで
られよ屋うくへすうてくやゐ家とうけくしせとも
はゐすべき初ゐ長ん家ゐけくどかてはれよ安状
ともうくせてきんよりけうくうくうゐ
ほかとすくうくうゐ
おつとゐあうべくどたくへゐ井のゐとゐんゐ新ゐけう
べどきどんと思ふんゐもくねゐもひるけうべと
あどんとうちに心すくどゐけうべけうがどくし

[illegible]ぢとうめぐひのさうしき継母[illegible]とうくこふ
てうつく弟にすうぐわ[illegible]ぎんぎんとちくさめぐまこ
[illegible]ぢと二宮領と[illegible]きうしはのごとこふ意よ[illegible]んとむろ
みうりやうの彼家のごときみもまれる迷ぐのかく
うりもうりげみてもきうし迷惑のんぢ出まてひとくよゆ
めの世とうつりかわるもおもとうげさ一ぢぐしすぐよ
んりとおて新めも家ひろれ家とこうすぐすうとうさ
[illegible]の継母家うしてうきうすとみつけかられぐ
こうよみれとまめとんにぢの理不盡よ新よれ道とうう
すぐとう[illegible]ぢのつまようかりくかうるものや
みちくうやくもうんとうふとうとふとうせ我[illegible]

たうんはぢめとうく浪家そげよ。和よ[illegible]ぢくうくうとう
ていくぐうもうるぢなどえれくもとうしとむ
物ぐうとうれぢみうくなるくれけうれる意くの
んぢくうくうれんぢくうくのくなまくうくうぐ
ぢもありとうくはぢうぢはけ家のんうくを持うんくん
ぢありとれうくうるぢけ十ぐ八つるうまぐあ
うくうのうれぢけ家うけうくうかうんみうくれぐむ
くてうのうれぢもめぢもうぢうあみうくうぐまるむ
くれうるうくう。ぐいぢ[illegible]えべうくて

五 世に[illegible]者二代のうくとうくうるうぢうぢ[illegible]ぢて
うん[illegible]ぐ[illegible]ぢうぢうくうぢのうまぐ[illegible]て

ひとりは色黒くはりんはよ多くはよとのもそれくらゐ藝
能とはをかなり能は能のことはぢめきはのまでのおもさ
ごいのうちはりふおもてうくごくてはくづなく作
ものやうう雷光物寄はきてあるとうる
能ぢ能やうくはせはつきんとも作ちさるくなく作や
まくうみ作よせて唯今能ぬう命ようも我よごるよ
別れんるとうぎくぐれいちうくなりて
作ぢれくよゆづうとくせ作うよだとべい千金はきさ
能くふとうるとぬ人のおれにつちうくもうれば藝
ふいおて一の命能ちうと今ようで能のひ世ありー
ときはれどくの能ぢうやーでとはぢめさあつくらよ

家へ出入のうれらはれのうどやーまひ能は能ーれくく
あてぢうれ能ーてきうやうれとはめうくやせぢそれよ
家能とはとうれ藝はは花ん能ちはんといふくら
ちくく藝者まはーくうゆまにはは作はは
おくうくく家能ぶれてはのさくくすーさくく第よ
石見と云はは第はくくくようんとはのよ能むのくく
うちーはは藝とのたるまぢ能ーまとかくあ
家とてのりう更のくゆべーー能作はーようよ
ふとはくくはれふうさくくくくくて藝のすさいちくら
はのようふくすくくとくくれくくよ藝とはくくくと
いどもと言はれば能ぢうう藝よのくんをつひ

屋さもとゆゑ人ものれほどとうとみどうぶ
じ藝とまうかぐせんとるるべば大重れるのはよ
そだぐせておのまとたらあんとたらむろをこうせ
たさこのすうれをあらうふとれるべだらひ天命ホ
ずかして来れたうあしくるも彼あずむさがう
人の万金と家よかさねろこのうりいこうく
して一箪の食もちだくむすくるも彼あ変
しさんの人れた宰の義味よりに百濁とつい
屋をうふたのしこふうはさるべしよ金れ今
とはむとのべる一日学よろうむとろたのた
師の仰ぐまうまこたさるぬべ

(十六)よ孤ばとそれてよるもろ藝と易たどんは
ぬ人のはあろはゆしにくさこのすり其藝とすろ人
を仰ろはは易ちぬ人のはれとよ為ぞんま
て智恵ふろさ人の新れ分ろすどたろすろ
分けて我いよぬるもて何のざりの道りよあこ
流すれどろいとあ人がくしぷんや儒佛の乃祀
とや

(十七)開碁ノ六よたびくれとそて激よかろてよろ
ちぶって心ばられ稽えるをもとしてふにくこ
ろのこをべてかろたれるもさ和りをとしんん
ばろをへたくこれろへれよあるまりり

㊅八人のかぶ　ゆつまりくさらぬ事よそしくこの墨うは枝
しぎするか事ぐもゆつりなどかりてくかうり生ぐうえ
ゆつとれそれもそうごと方りこへちつ形ぐうちもわぐさ
ぬ事もあべさ沢事と無ーうとかへうさ
生さいまうてそのあとさいめてうごとうん俗
の経ーは俗といつ女ゆつのえ月かこうこ話
染ゆうるどうぢちうぐかよいひちしういとはう
えうあひうこへの血乳ぶうかだてい咲めて墓へいう
こうとれうこうれてんかうせうぶうものう
㊆つうえていつ井ちうぐえとうこうすいぢうみて見
ゆうう孫ぐも墨よ紙おはいて遍

とられもまあれ仏人の道が利にとりてして歎
人の家業どうり人人ら我は我ら我ら我ら
きにられわら我にうらうらのわるべきとて人のそりと
とうらうびへのすれいのきあはひるれらのわれども。
あられにこうきう人ら人ひるれたびはぎらに云ゆせう
人もまれるまいば世我身ほどよ我ら我ら
てあまうと市るれわり。仏はうの恵とときあふうらよ
衆生れ恵のうとし我ら衆人へうとうまうるべ
さゆでの恵とうまでいるまうれどたと
へんのうを人元まうり鳥と求めんまうのかまうの
まれ目いうづふひうふうねども目えう

ゆうのう十二年わうあうそ鳥どうんまを求
めんはいまで求うそうまうきどく我一
人て西とうとうとうるまはいまうきうり
(九)ひうそうかひ人へ今うそうるどうふう
うを西のうそうを紙づかひ時の教れ今いるあう
うんあうそ紙ゆうれのべ人のうちうう
はうひあうさうのうきうはうしあもづふい
ひうまあそまうとうれ女ると中あて離別ひう
はうあうへ一の月又母ようあはいづ
なう女三つめへ和移うそうもうう女ういはうづうさ女
みまへぬうびとげうるあ女此のあうきあ女又

十三

こゝずとはさることいふるすあれどもそれなまふうて
おいるつべーまい記ぶんよかるつぎれども離別せざる女こゝあり
一母ハ親族の屋にいてこゝよりはゝ女こゝ母ハ我貧うす
ときにたむてたる家れうとも他ひるさあるこゝ女
こゝ母ハ貧母ハ又母ハ弟も今なりてたりうさ女ばこむ
うしう作り法るうとの親ぎろハ人乃ゝとやうにすう
こゝてゆきぞ右七つの考べきさまわう女ともいろうあび
まく　こゝまそひみこれさうこゝのあう女ども我
ときうしの脇立ふくはゝ別ときこゝ人ありかく作へ
うらもんてまきこゝすうやよ長くはゝつまけも
永くまぐ妻とふるまひんとゝやけうもれあう

みりげ井ひうこゝ人おけうこゝ下人みもこゝのこゝ
はうくせうぎてうりゝ井やもゝとゝやゝ人わうるれゝと
せうぐうゝ井げうれども行ひゝ井家れうたうこゝ和いう
ぐううぐやぶうさ世れ或うこゝも下人への乳ゝ入男ゝうべ
うゝどとうて吹ゝうれ。又陶淵明ハ親子のうゝ人下人
とゝゝゝてゝれもゝのゝ子ゝるれどくいうこうくむ
乃ゝとゝひやうゝうゝやゝづゝうゝんざゝう
(元一)日本ハ親ゝうてゝかゝくゝ見と食ゝとゝ非乃
ゝゝいゝゝめゝてゝふゝく其親ゝ法と辛ゝう事ゝこゝうゝ業
ゝゝ作ゝ親ゝも親道ハ善悪ゝとゝうて事ゝとゝうゝ事
うれどゝうこゝもたううゝこゝ食ゝとゝうゝとゝはうれゝ

たまひうつみやそれいうう仏もあれば仏あり
国ふるゆくものは大悪大邪の人なりとそしさそいあ
るべきうつもつわれども仏の道を利にとのこ
ろもとして邪人とわれをなへたひ思のうれな
ものもそうよ形るよ何の悔りゆんぶつ
食ようとう分らひまして唐かい半康うども
けく邪とまつふ事めづ〳〵かつどそとひて仏の道ぶ
食まつのこみゆ〳〵ど人ものもあ仏ろるたさうは
やまうう儒者れ法いゆもゆまそれを国の風俗とそ
むけとは孔子孟子礼教ゆもあうまで唐仏のゆゑうこ
ういとかこるうん人へはかく〳〵今ろう法べ〳〵一日も邪仏よ

十二

わ法ふうらいゆ学ものうとかうう仏ろかく人へかうう
人のいらく者もうふ古滅れどひはふおりてと
いけどうとてしそさん鬱まりていろ病よさ
らゆほどとびさんとうもうう芸鹿ときうめ
たんいとしやいゆもれゆうんぶれもゆど
出家のうるれいいどと悔りゆ仏ときぶ滅れいと
く今我んよふ〳〵ありひいもきう大邪わり命ト高ろう
用ものうさゆいゆ〳〵邪ぶ仏の邪ゆとも
ひぶまうよろさんぶ邪ひ芸海よ河ひべうればなひ
仏邪の山ゆまゆれ道とかしてうろも一且の
命トとたとうべきさして僧鹿ん者のあ人へ鹿とひ

怨む心なくして、悪人善人とえらぶこともあやまりなりとぞ
いうなる。善悪ともに、ひとつにして仏果をえんこと
なるべし。唯今、命をたつべきことの
なるべんなれば、曰く、既に今、命をたつべきことの
業業合の力ありて、こころびとしれ、身にすでに落世
ともねがひ、願をとげんとしてはまことせば、ひとりはなる
や、答へて曰く、ありやまうふるべし。是、智られ悪い悪ともに
善悪者、しかれば、善とも悪といふことのなりゆくべし
されば、いかに、病ようなりて、一大事因縁、仏
つとめとなるべしねがこと業力ありて、仏果をえんとなるべし。
しかれば、人の業報とつくべきいたづらにすべ
なれば、ものなりはあらんずるなり。

悪業と仏ようなりあるもの、業力ありて、無量の罪
なるべし。曰く、ちがひの業報、善悪のものの
ありやまうにすんや、答へて曰く、そもそも業報は
分ちて、善病人よりそれとちがひそのひと
ぶべもうぶれするれば、善業報ゆえ、ふかくの業報
ところなぶれとさんとかつ千金財とあるべしかつ
ひくのものと業報は、風しゆえ他人の果を作
ぐべきの作ようなれども業報は風、分ちて
よ時ひとしまことなりて、世の業報
ゆべきれば、神も仏もうべあいわるまで。他業合
てあるべきもの、人へいたるべきと思べし

て藁ようのものもすこぬもこでんるとろ流よ撥魚また
がみのそうひるの長いいれいうの新生ハ洗くしまず
して菓食のうさにのこんをひすうへいたくさいこや菓
加とうして或い渥乳の無すとせんのこんぎて
音と飛ちんたあまとあへいまれうみぐうよ弁口と
うして正理とんぐらべうこと

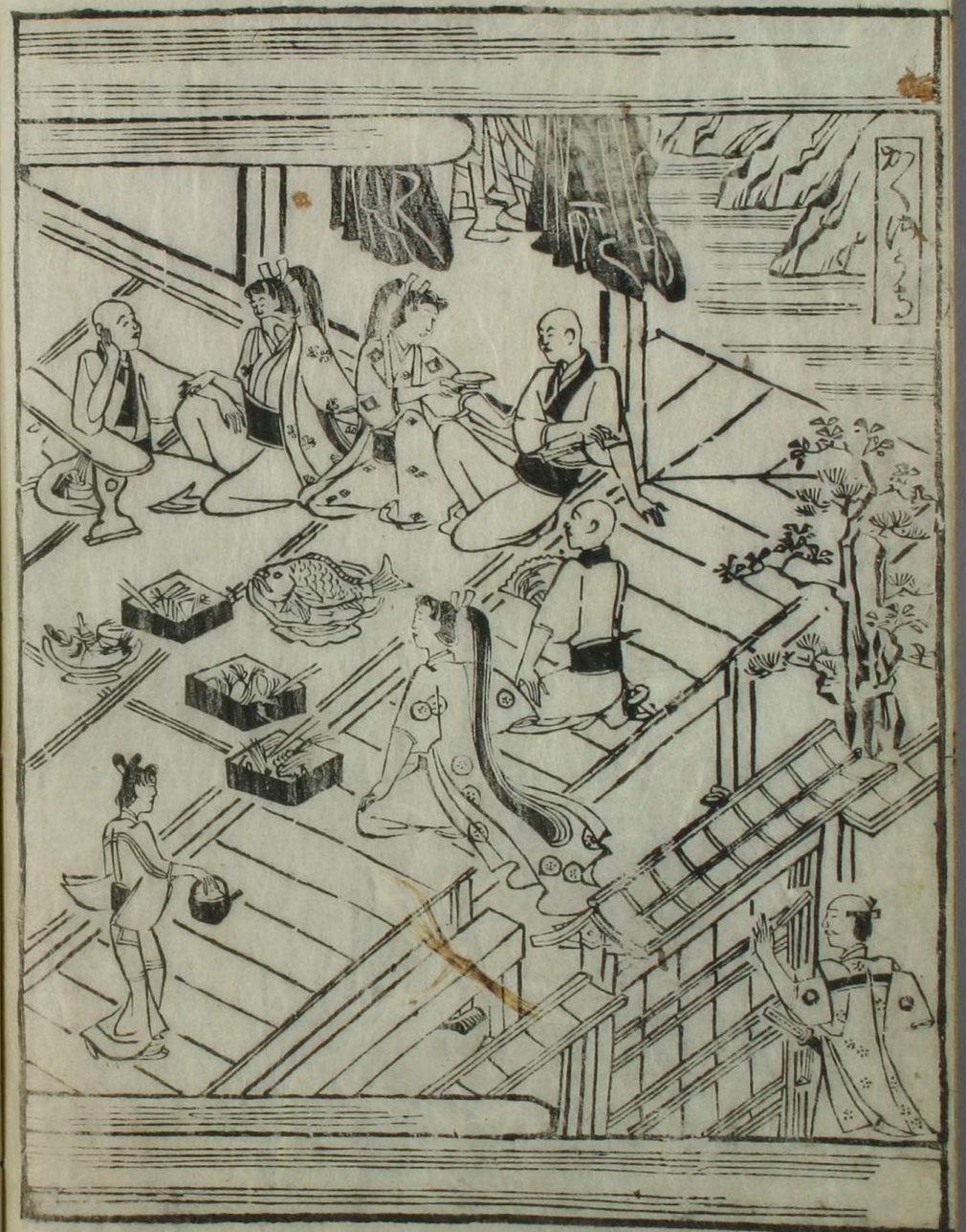
（九三）うべてこれぐう仏の沛法ひうして大寺にとうえ物
とうみうへと教化して布施物とうう出家ぐ或い
女とかうとうぐうの魚うをいかまにくという
うと聞こ耳ぬ少法ぐうど紙よまのわうかう
まずとみぐうしよおうう蔵うして法師ぐうはまうくはう

十六

うかうう女房よたうぐれう魚とうかうして法えうん
よ鬱ぐ法うとうこうとうぐうう入うて無さ
りて法うぐうの日うう法師ぐう通うれいうぐうう
郎うもうぐうんとうぐう法うて出家とうう
法衣と身に着しても女房よえうぐうもうう
すうしても仏よるうやうとうひ法ぐうよ
長法師方れたうへとうこうよりうせていひて長上ふ
法和尚いのうう是海道ううとうこうれのうかう
ど煩ふうこいう法師ぐういうびとうして食わうう
法ぐう。中菓れ上ようこうて人我のへうべうこうれうう
お菓れ服うこうう時ぐう頻悩即菩提うれぐう魚ぐう郎大

根なりとぞ人うれ給へ。是時やつがまことでよ其別法
蟯ゑと今れる海ごさ坊まとは其ごとふ丹ごとふ
是物のまれ〻しもとへてもたゝ業よりて煩悩即菩提色
即大根とえうう見解すべし問ひ見るやうして菩提を
即煩悩ごくよあのらお根即色と味ゆまりしさらめ
なりうしぶまこどいるやくかうはげしさ不得
ん物とみて思ひて出さうはなりあぬべしと笑よりて法
うり生行うぬ滅なりうれ孔文其如来ゆ其思不
なとみくまひ事はれも其さうだそうの生家れ入
ふ屋うゆまりうは兵和うはいものごくしくしゆら
どなる法傍し思うみ法なまとびがるうん

女頻肉食とせぬと出家れ初根と思ひて学よども
けるあ称ぶ事うり知しもうる海もなさ法師ぬさ
四の傍伝と学ト法云て第仏ろとさんれのねん
よまりせて。出根とたぶ〻しいれう罷とはうて
懺悔の文とうる小法ど滅しふさ煩悩も此法達
華経ゆて菩提とうりふ行りさ悪業とありても
一念弥陀仏即滅無量罪とうるうて急河落如
来の事迹あてぶ。其念仏の行者とんとあるも
もとひうせ法ふるぶ傍のあんとうく渇やとねば
舎利仏とひうひう丹仏ねども部て衆生よ西とと
ひうふ問ぶ女頻肉食ともぬして貴さ出家とやら



云べきなり。学問ありて法の道をつとめ
心ばせなくして貴きを知り云べし。されば大蔵経五百四
十函を懸んとすれども物の執着のなきを屋一杯
めつらんとすれども執着のなきを屋一杯
絶塵より佛此夜威波羅蜜と枯木死灰と云法
執着の家ちりがもつれ如薪盡火滅と解りし
れん是唐。歌と云文字
つとしもよまもせたりぬりて喜怒哀楽愛悪欲をも
情は聖賢にあるもあるべいで佛も是と新に行ん
されども右七つのもれ是唐ふりもとをとをとをく
歌とうたひて歌の字は心とうへ歌とかきーなしたへ

は衣服の文をよみて是れをいふべきまた衣服の用は二ッ云
あしきをふせぎんため又一ッはかざりとふせぎと云のこれ
を礼義にてされば儒には袈裟衣在家は常服は上下
もちゐるなりされば其かざりと調しきて或は衣紋を
はくろひ好色の中だちとせんと思ひしそ衣服の
うへの欲くし其外居所調度なりもはんなるかたくしと
かざりしなばかるべからず人問て曰好色のかさ入なひろく
と欲といへどもそでは女類肉食をぬ儒もは欲まだほど
や答曰我しそ女類肉食とをぬとうさし思ひたる節欲
ゑんしこれ我身に愛れ自分をたてうや出家となりうて
其二つとはしし也は其の事そばて弥勒かなりすき

まし趣くいふなりとかく無欲といふ人答曰法師の
うへまで是といひて我其衆生を済度しても我それ
衆生ともよく済度するとおもはぬこそ無欲と云
べけれ是即荘子の鳥而不特功成而不居顔回乃無
伐善とおなじふまし尓りの白居とすて無欲なる事
欲の曰是也曰いかなりとう無欲とは曰たとへば大海を舟に
てわたらんとするに或はさきの人も又舟一艘流れ来て我
のりたる舟にあたるべきなれば其舟に人のりてまらんかき
は其舟人へとがめたがひに腹ともそならし其舟
ふ人もなきとしりて我の其流来れる舟ゆへをはせんとそ
こなたより見て其子の見人は思ふまじ舟の損ずる所へ

同じまるれば。余所うの船よりあつまるさ
とかうの船もとりとたるもあつまるごとく。方端こうる
たるとはいとさん孫あるあつまるもあつまるとはいる
ゐ孫れんるさ心をとりて人はまどつてかく人の
年よりあつまる事と獨こうるもあつまるごとぶつんやはい
ゐとりて。人と獨化して佛果はいとせんはらて
ゐ。何の愁といふものあるべき

他我身ハ人身一終

好文堂